

沖縄現地学習会に参加して①

国策により強行される 新基地建設

那覇空港からバスに乗り初日が始まります。街中を抜けるとすぐに自然豊かな森林風景が続き、沖縄独特な小さな家の様なお墓がよく目につきました。聞くと親族がお墓に集まり宴会するので、一つひとつの墓が大きいとのことで、人とのつながり、温かい民族性を感じました。

昼食後、辺野古テントキャンプシュワブゲート前に到着しましたが、豪雨でバス内からの見学となり、建設支部の宮崎さんから現状説明をしていただきました。辺野古埋立工事は2014年から始まり、軟弱地盤・活断層等の理由で当初の計画を変更した中、土砂の搬出先は西海岸の琉球セメント安和棧橋・塩川港から約15隻の運搬船に積み込まれ、北回り・南回りで辺野古に運搬されます。陸上では1日ダンプ1000台～1500台分の土砂を搬入して着々と工事は進んでいるとの事でしたが、現地での反対行動もあり埋立て全体の土砂量の1割程度しか投入されていません。

ダンプの前を牛歩で 阻止行動

2日目はガイド大畑さんと各地をまわりました。琉球セメント安和棧橋・塩川港を見学、沖合いには土砂運搬船が10隻ほど停泊していました。辺野古埋立を遅らせるために搬入するダ

ンプの前を地道に牛歩で横断する行動が続けられています。



その後、戦地になった伊江島へ行きました。伊江島には戦時中、東洋一と言われた飛行場が建設され、守備隊が配備されていたため、米軍の主要な攻撃目標とされ、一般住民約1500人を含む4700人余が犠牲となり

沖縄現地学習会に参加して②

建設支部の宮崎さんから 現地説明

南大阪平和人権連帯会議の沖縄現地学習訪問団として、6月3日から2泊3日で「現在の反戦闘争を学び自然あふれる沖縄を知るツアー」に連帯・港合同・市職員・地域合同含め総勢18名で参加しました。空港からバスで名護市の辺野古新基地ゲート前に直行し視察をおこないました。辺野古では建設支部の宮崎さんから辺野古新基地について説明を受けました。船での土砂の運搬や弾薬庫について話をききました。反対運動で船の出港を遅らせ、現地の人が少しでも基地を完成させないために頑

ました。

戦時中、防空壕として多くの人を収容したニャティヤ洞(千人がま)を見学。盛んに栽培されている煙草畑を抜け、平和活動家である故阿波根昌鴻さんが主となり土地返還闘争、非暴力の抵抗運動の拠点として建てられた「団結道場」は、建物の内外壁には阿波根さんが書かれたたくさんの言葉があり『殺し合いでなく助け合う人間、奪い合いでなく譲り合う人間、隔(だま)し合いではなく教え合う人間、そういう人間が平和を作る』という言葉に心うたれました。

阿波根さんの言葉の中には私たちが携わっている労働運動にも通ずるように感じました。

(執行委員 宮脇祥三)

張っている事に嬉しく思いました。

平和を守る大切さを感じた

2日目は本部港から船に乗り伊江島にいき、郷土資料館やニャティヤ洞(がま)・団結道場・反戦平和資料館「ぬちどうたからの家(※)」にいきました。「ぬちどうたからの家」には、戦争当時の記事や、衣類や仏像、不発弾までありました。展示している資料を読む中で、1番心に残った記事があります。占領下にある沖縄に1966年、米海軍が早期警戒機ホークアイを持ち込んできました。島民はミサイル撤去反対運動に立ち上がり、幼稚園児まで旗を掲げデモを行

い600人でたたかいました。その結果、ファージョン司令官が住民たちと交渉したそうです。司令官が住民と交渉する事はとても異例で、凄まじいたたかいをしてきたと感じました。今の労働運動にはない力強さとこれからの課題が見えた気がしました。

その後、謝花悦子さんから当時の戦争の悲惨さや、僕らに「戦争が起きた伊江島ということとは忘れないでください。あなたたちが平和を作ってほしい」と語りかけられました。命に優るものはない事と軍備に対する



怒りが伝わってきました。沖縄のために自分たちができる事をしっかり頑張ろうと思いました。3日目はひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館にいきました。戦争の歴史や当時の生徒の行動や考え方、1930年からの流れを見ていく中、見学時間が1時間では全然足りませんでした。ひめゆりの学生は、爆弾が飛び交う中、医療補助、遺体の

片付け、傷ついた兵士の看護などをしていたと書いてありました。今の日本からは想像もできない内容で、もし戦争が起きたらと考えると、恐怖と苛立ちを感じました。

この沖縄現地学習訪問団として沖縄にいき、戦争の悲惨さや沖縄の歴史を知り、平和を守る大切さ、戦う力強さを教えていただきました。

(執行委員 岡田 大)

※「ぬちどうたから」=『命こそ宝』の意

2022支部団結学校

6月26日、大阪港福祉第1センターで、支部団結学校が、29名の参加で行われました。(教宣部)

初めての司会で緊張しました

教宣部に入って初めての団結学校で、若手の僕が司会をやらせていただき、右も左も分からないままのスタートでした。

僕は、中学・高校生活で人前で喋る機会がなく、口下手なこともあり司会を任された時はパニックになって詰まってしまうかもしれないと心配になりました。

当日、始まる前に考えていた言葉を言おうと思っても、いざマイクを持って喋り出したら思い通りにいかなく、これで進行できるか心配になりました。

進行表を見ながら進めていましたが、タイムス



ケジュールの変更や、参加した執行部のあいさつが追加されたりして、戸惑ってスムーズに話せないこともありましたが、無事に終わって僕の中では安心しました。

最後になりますが、新加入組合員の皆さん、これからも組合活動に積極的に参加して、全港湾大阪支部を盛り上げていきましょう。

安部秀紀(朽木協賛分会)

スタッフとして団結学校に参加しました

以前、新加入組合員の時に団結学校に参加したときは、右も左もわからず、講師の方がたの発言内容がほとんどわかりませんでした。

今回の団結学校では、陣内副委員長の組合の歴史などパワーポイントを使い、とても分かりやすく、改めて勉強になり、さらに興味を持つことができました。

私の中で吉本副委員長が話された「まずは横と繋がりと自主性が大事だ」という言葉も響きました。組合に関して、まだまだわからない事だらけですので、新加入組合員の皆さんと一緒に、いろいろな組合活動に積極的に参加していきたいと思っています。全員で全港湾大阪支部を盛り上げていきましょう。

上田勇輝(大正埠頭分会)